会 議 記 録		
会 議 の 名 称	決 算 特 別 委 員 会 産 業 建 設 分 科 会	会 議 場 所 第 2 委 員 会 室 担 当 職 員 三 宅
日 時	平 成 2 6 年 9 月 2 4 日 (水 曜 日)	開 議 午 前 1 0 時 3 0 分 閉 議 午 後 4 時 1 4 分
出 席 委 員	齊 藤 中 澤 福 井 馬 場 小 島 菱 田 日 高 湊	
出 席 理 事 者	【産業観光部】山田部長、内田農政担当部長、[ものづくり産業課]野々村課長、[観光戦略課]奥村課長、[農林振興課]堤課長、由良副課長、内藤副課長、[国営事業推進課]谷口課長、上田事業担当課長、[農業委員会事務局]神崎事務局長、永田次長 【上下水道部】大西部長、中井事業担当部長、[総務・経営課]西田課長、人見経理係長、[お客様サービス課]荻野課長、[水道課]石田課長、畑事業・計画担当課長、[下水道課]阿久根事業・計画担当課長、川勝主幹、大石庶務係長	
出 席 事 務 局	阿久根副課長、三宅主任	
傍 聴 者	市 民 名	報 道 関 係 者 名 議 員 1 名 (西 村)

会 議 の 概 要

1 0 : 3 0

- 1 開 会 (委 員 長 あ い さ つ)
- 2 事 務 局 日 程 説 明
- 3 付 託 議 案 審 査 (事 務 事 業 評 価 選 定 項 目 を 除 く)

~ 1 0 : 3 5

[上 下 水 道 部 入 室]

- ・ 上 下 水 道 部 長 あ い さ つ

平 成 2 5 年 度 亀 岡 市 上 水 道 事 業 会 計 決 算 認 定 (第 1 8 号 議 案)
・ 総 務 ・ 経 営 課 長 説 明 (歳 出 ・ 歳 入 一 括)

~ 1 1 : 1 2

[質 疑]

< 馬 場 委 員 >

P 3 5、資 本 的 収 入 の 一 般 会 計 負 担 金 の う ち、三 宅 水 源 に 係 る 内 訳 は。

< 総 務 ・ 経 営 課 長 >

大 規 模 ス ポ ー ツ 施 設 に 係 る 一 般 会 計 負 担 金 が 1 8 0 9 万 4 6 5 0 円 で あ る。

< 馬 場 委 員 >

P 3 7、施 設 改 良 費 の 委 託 料 に 占 め る 水 源 影 響 調 査 分 は そ れ と 同 額 と い う こ と か。

< 総 務 ・ 経 営 課 長 >

そ の と お り で あ り、そ の 残 り の 分 が 水 道 マ ッ ピ ン グ シ ス テ ム 業 務 委 託 に 係 る 内 容 で

ある。

<馬場委員>

全体的に、有収率減少の主な理由は。

<水道課長>

消費の落ち込みの他、漏水、消火栓使用、大規模な団地開発による通水、台風18号による断水等の影響が考えられる。

<馬場委員>

大口利用の減少や一般家庭の節水等をどのように分析しているのか。

<総務・経営課長>

給水人口は増えているが、消費量が少ない状況にある。その詳細な分析はできていないが、全国的な傾向として、節水意識の高まりや機器の普及による影響が、本市においても表れているのではないかと考えている。

<馬場委員>

節水型のトイレの影響は大きいのか。

<上下水道部事業担当部長>

以前は1回にバケツ1杯程度の水で処理していたものがその半分程度で処理できるようになり、その影響は大きい。

<福井委員>

P35、資本的収入の工事負担金についての説明を。

人件費支弁の考え方は。

<総務・経営課長>

主に下水道の管渠工事における原因者負担分である。

各業務に従事すべき職員数を配置し、費目別、性質別に分けているものである。

<日高委員>

P33、総係費の補助交付金について詳細説明を。

<総務・経営課長>

東西別院町における各家庭の取水施設の掘削費用等に対して、補助するものである。25年度、20件の実績であり、各家庭における上限が100万円、補助率は3分の2である。

<湊委員>

P4・5、資本的収入額の資本的支出額に対する不足額を消費税等資本的収支調整額及び損益勘定留保資金で補てんしたと記載があるが、その補てんという意味がわかりにくい。説明を。

<総務・経営課長>

企業会計は、損益勘定留保資金を持っており、減価償却で貯めていた現金を充てることにより工事を執行するという意味での補てんである。

<上下水道部長>

企業会計では、事業活動を継続している中で決算の時点を区切る上で、不足分として表れる金額が生じるので、それを補てんするという見方であることを理解願いたい。

<湊委員>

補てんしたということについて、実際に現金の動きがあるのかがわからない。

<上下水道部長>

実際には支出をしていない減価償却分のお金で回しているものと理解願いたい。

<福井委員>

先日の条例改正議案の内容であるみなし償却制度の廃止は、こういうところに関係するののか。

<上下水道部長>

みなし償却の見直しは、料金水準に影響を与えるものであり、直接関係するものではない。

<湊委員>

説明を聞いてもよく理解できないので、今後、わかりやすく説明を受ける機会を検討願いたい。

~ 11 : 33

平成25年度亀岡市簡易水道事業特別会計決算認定(第12号議案)

・水道課長説明(歳出・歳入一括)

~ 11 : 45

[質疑]

<馬場委員>

千歳簡易水道の今後の工事計画は。

保津簡易水道施設について、冠水等の被害はあったのか。

<水道課長>

布設替え等の工事を昨年度から実施し、来年度にかけて年次計画的に進めている。

簡易水道の施設については被害を受けていない。

~ 11 : 47

[休憩]

13 : 00 ~

<齊藤委員長>

午前中の質疑にあった、上水道会計の収支に係る補てんの解釈について、次回の月例開催の際に、資料の提出を求めたので、承知願う。

平成25年度亀岡市下水道事業会計決算認定(第19号議案)

・総務・経営課長説明(歳出・歳入一括)

~ 13 : 25

[質疑]

<馬場委員>

P32、資本的支出の管渠布設費の工事請負費について、主なものは。

<総務・経営課長>

P19、建設改良工事の概要を掲載しているので、参照願う。

<馬場委員>

P8、資本金の割合について、下水道事業においては、自己資本金と借入資本金との割合の差が大きいですが、どのような考え方が。

<上下水道部長>

下水道事業は、上水道事業とは異なり、最初に浄化センターという大きな施設を借入金で設置した経過があり、スタート時点での性質が異なっている。

~ 13 : 27

平成25年度亀岡市地域下水道事業特別会計決算認定（第14号議案）
・下水道課事業・計画担当課長説明（歳出・歳入一括）

～13：37

[質疑]

< 中澤副委員長 >

農業集落排水施設災害復旧に係り、今後も同様の事態が懸念される中、その対策等の考えは。

< 下水道課事業・計画担当課長 >

災害復旧は、原形復旧が基本であり、今後の災害の状況により再び同様の事態が起こる可能性はあるが、浸水防止の対策等を検討していきたい。

< 福井委員 >

場所によっては、有収率100%を超えているが、原因は。

< 下水道課事業・計画担当課長 >

100%を超えるケースでは、畑への散水等、使われた水がそのまま下水道管に入らないことが考えられる。

< 上下水道部事業担当部長 >

例えば宅地内で水稻を育成する場合の散水や洗車等、様々な要因が考えられる。

< 馬場委員 >

収納率向上の取り組みは。

< お客様サービス課長 >

全体的には、平成24年度に比べて収納率はアップしている。料金センターへの業務委託により、夜間や休日の徴収、給水停止の対応等、鋭意努めている。

～13：45

[上下水道部退室]

[休憩]

13：55～

[産業観光部入室]

・産業観光部長あいさつ

平成25年度亀岡市一般会計決算認定（第10号議案） 所管分
（総務費～労働費まで）

・産業観光部所管課長、順次説明（歳出一括）

～14：05

[質疑]

< 小島委員 >

P147、カーボンマイナスプロジェクト研究委託150万円は、3つの大学にそれぞれ同額で委託したもののか。

< 農林振興課長 >

50万円の同額で3大学に委託したものである。

< 馬場委員 >

カーボンマイナスプロジェクトに係り、京都学園大学の研究結果としての食味は。

雇用創出事業に係り、観光協会への委託について、どのように評価しているのか。

< 農林振興課長 >

炭堆肥と畜産堆肥の量を比較してどうであったかという研究であるが、悪くはないという結果である。

< 観光戦略課長 >

各種団体等へ委託する部分での京都府からの補助金であり、適切な委託先として、過去の実績等を評価し、観光協会を選定したものである。一般社団法人化しているが、実際にはまだまだ弱体の組織であり、観光戦略課が大部分を手助けして運営している状況である。

< 馬場委員 >

「明智光秀のまち亀岡」P R・案内事業に係る雇用従事内容は。

< 観光戦略課長 >

城下町観光案内所における観光案内業務や各地における観光P Rに従事するものである。

< 中澤副委員長 >

商工会議所へ事業委託した地域ブランド認定品P Rに係る従事内容及び成果は。

< ものづくり産業課長 >

現在、54品目を認定しているが、各地でのイベント時の販売、インターネットでの販売、ふるさと納税に係る産品発送等に従事したものである。成果としては207万4千円の売り上げがあり、その内訳は、WEB販売32万9千円、イベント販売等174万5千円である。

< 湊委員 >

事項別明細書P151、施設管理等業務委託料の記載があるが、別の所管分か。

< 産業観光部長 >

他の所管であり、おそらく保育所関係と思われる。

< 齊藤委員長 >

「明智光秀のまち亀岡」P R・案内事業に係る従事者について、どのような方法で雇用したのか。

< 観光戦略課長 >

ハローワークを通じて7名の応募があり、観光協会において審査したものである。

~ 14 : 14

[観光戦略課長退室]

(農林水産業費)

・ 産業観光部所管課長、順次説明 (歳出一括)

~ 15 : 02

[休憩]

15 : 10 ~

・ 産業観光部所管課長、順次説明 (歳入一括)

~ 15 : 25

[質疑]

< 小島委員 >

P150、農業委員会運営経費に係り、農地法許可申請・届出等の処理件数は従前

に比べて増えてきていると思われるが実態は。

< 農業委員会事務局長 >

農地転用については、近年の景気状況や自然エネルギー化としてソーラー発電設置の傾向や労働力不足等の要因により増加している。

< 小島委員 >

P 1 5 3、炭素埋設農法支援事業助成金の交付方法は。

< 農林振興課長 >

肥料に対する助成であり、産物の品目等を指定したものではない。クールベジタブル参加者が使用している肥料である。

< 小島委員 >

一般の水稻農家にも普及できるように、さくら有機を含めた環境にやさしい農産物栽培支援としての施策を考えるべきと思うが。

< 農林振興課長 >

炭堆肥の生産にあたり、炭の確保が困難な状況があり、理解願いたい。

< 小島委員 >

P 1 5 7、農林水産業者生産設備再建支援事業経費のコンバイン 2 台分に係り、農業共済による対応はなかったのか。

< 農林振興課長 >

一定年数経過したものであったため、保険では対応されない。

< 馬場委員 >

調書 P 1 5 5、農業総務費の調査・測量・設計等委託料の内容は。

< 産業観光部農政担当部長 >

国営ほ場整備事業に伴う市道認定業務に係る委託料である。

< 馬場委員 >

P 1 5 3、安全安心のエコ農業推進事業の主な経費について、「エコ農業推進啓発補助金」と記載があるが、事項別明細書では「エコ農業推進事業補助金」と記載があり、どちらが正しいのか。

< 農林振興課長 >

補助金の名称としては、「エコ農業推進啓発補助金」としている。

< 産業観光部長 >

事業項目として、財政課サイドで「～事業」と揃えるようにしているが、事業の中身としては啓発事業である。

< 馬場委員 >

P 1 6 0、小規模基盤整備事業費に係り、主な経費の記載があるが、各工事実施箇所の事業内容について、決算として把握すべきである。資料の提出を求めたい。

< 齊藤委員長 >

資料として提出できるか。

< 国営事業推進課長 >

資料提出する。

< 福井委員 >

P 1 5 1、都市・農村交流事業経費に係り、日替わりシェフレストランは、現在やっていないと思われるが、本決算で事業終結ということであれば、経過、成果等はどうかであったか。また、関連して、P 1 5 2、食農学習促進事業で、小学校での食農学習や地元産食材の給食利用やふるさと料理塾などを色々されているが、大きなテーマを打ち出してその下で実施しないと、バラバラにやっているようでまとまり

がないように感じていることを指摘したい。

< 農林振興課長 >

日替わりレストランについては、昨年度、経営が厳しい状況から、協議を重ねた結果、平成26年3月に閉店したという経過がある。効果等については、年々検証されてきたと思うが、当初の場所に比べて西友に移ってから、足が遠のき、場所代等の負担が大きかったようである。

< 産業観光部長 >

築城400年、城下町観光を標榜する中で開店し、その後諸般の事情により、西友4階に移転したが、観光客を取り込めにくくなり、また、日替わりシェフの確保が難しくなってきたこと、そのリーダー格の方が体調を崩されたり、色々な経過の中で、閉店に至ったものである。

< 農林振興課長 >

P152、食農学習促進事業等において一体感がないとの指摘であるが、個々において相手が違うので、一律の位置付けになるものではない。地元産食材利用を少しでも普及していくという地道な活動であることと捉えてもらいたい。

< 齊藤委員長 >

それぞれにテーマがあるということである。

< 福井委員 >

それぞれが悪いと言っているのではなく、せっかく良いことをしているのであれば、行政視察で学んだ小松市の事例、「環境王国こまつ」のキャッチフレーズで大きな柱を立て、その下で施策展開する、そのような方向性をもってもらうことを望むものであり、そのように受け止めてほしい。

P156、農地・水・環境保全向上活動支援事業に係り、今年の台風18号被害を受けての活動はどうであったか。

< 農林振興課長 >

一定、計画の協定に基づき活動を支援する事業であり、災害があった場合は、随時変更を加えて対応しているが、あまり大きな変更が生じるものではない。

< 湊委員 >

P151、農業公園の指定管理委託料に係り、その成果、実績、今後のあり方は。

< 農林振興課長 >

実績としては、あぐりフェスタ開催で参加1500人、体験イモ掘り開催で参加400人、その他、婚活イベント等を開催し、今後においても農業の中核的な公園として色々な事業をしていきたいと考えている。

< 湊委員 >

当初から農業公園の存続意義に疑義をもっているが、継続するならば、水路ぐらいはきれいに掃除してもらわないと、きれいな水が湧いているのに非常に汚い。

< 農林振興課長 >

指定管理者に指導する。

< 湊委員 >

事項別明細書P157、水田農業構造改革対策費において、不用額が6322万円も出ているが、補正予算を組んだにもかかわらず、なぜそれだけの不用額が生じたのか。

< 産業観光部農政担当部長 >

今年の台風18号に伴う被害が多くあったことから、京都府において緊急に補助事業を制度化されたことに伴い、12月補正計上したが、被災面積・量を十分把握で

きている状況ではなかったため、最大分を計上した。結果、本事業を活用して補助金を得た地域、農家組合等がそこまで至らなかったことにより、不用額が生じてしまったものである。

< 湊委員 >

事項別明細書 P 165、林業費においても不用額が大変大きい、鳥獣対策事業に係る分を除き、どのような要因であったか。

< 農林振興課長 >

林業における災害対応等の補助事業について、最大分を見積もったが利用が少なかったことによる。

< 菱田委員 >

日替わりシェフレストランの事業終結に係り、各シェフは個別にレストランや弁当屋等、新たなことを展開し、地場食材の普及に一定の事業効果があったのではと考えているが所見は。

鳥獣対策事業に関連して、バッファゾーン事業等は、実施主体が市ではなくなったが、市の農政施策と密接に関連している事業であることから、その財源等はどうなっているのか。

< 農林振興課長 >

日替わりシェフ会員のその後の状況については知り得ていない。

< 産業観光部長 >

日替わりシェフの中にはガレリアの朝市と兼ねてされていた方もあり、弁当等の販売にシフトされたり、他にも料理教室の開催等されている方もあり、一定の効果があって、その役割は終えたものと考えている。今後の施策については大きな課題であり、観光、農業と組み合わせて、城下町で新たな展開ができればと考えている。

< 農林振興課長 >

事務事業評価の際に説明したいと考えている。

< 菱田委員 >

バッファゾーンに限定しているものではなく、農業再生協議会等の活動全体を指しているのであって、国や府から直接そこへ補助金が交付されているなら、本市農業全般を見てのチェックができないことから、各協議会への補助の内容等を把握しておきたいと考えての質疑である。資料による提出を求めたい。

< 農林振興課長 >

バッファゾーンに関しては、有害鳥獣の分野になるので、亀岡市有害鳥獣対策協議会で実施しているものであり、事務事業評価での説明としたい。

< 産業観光部農政担当部長 >

いわゆる直営事業として、市を經由せず国・府の補助を受けている事業団体のことであるが、市もその事務局としての一端を担っているものがあるので、一覧として資料提出したい。また、事業内容等については、その把握に今後も努めていきたい。

< 齊藤委員長 >

それでは、資料の提出を願う。

< 菱田委員 >

日替わりシェフレストランに関して、行政の施策は、商工、観光、農政と縦割りで、横の連携が十分機能していないことを感じており、それを福井委員は指摘していることと思うが、やはり産業観光部としての戦略、その中のテーマ、その下

での施策を立てることが必要である。そのような展開が図られるよう要望する。

< 中澤副委員長 >

日替わりレストランに関連して、部長は一定の役割を終えたとしているが、地元食材を普及するうえで、非常に大きな効果がある事業である。今後、城下町や駅北で何としても行政が力を入れて事業展開を図ってほしい。しっかり総括して前向きに検討願いたい。

< 産業観光部長 >

駅北の活用は京都府にも要望している。ガレリアのレストランについても閉鎖になり、今後違う事業展開となる見込みである。今後、今年度中に亀岡駅前において亀岡牛を中心とした食の取り組みを始める予定であり、その結果をみてその後の展開を検討することとしている。ものづくり産業振興ビジョンに基づく食産業振興プロジェクトの会議もあるので、次年度以降の方向性を検討していきたい。

< 中澤副委員長 >

農産物は一番の魅力であり、それを全面的に普及促進すれば、各施策はそれに付随していくものである。そのような施策を検討してほしい。

< 齊藤委員長 >

補助金を出して、手を上げてもらうのではなく、やりたいと手を上げるところにしっかりと支援していくような手法で、農産物振興に努めてほしい。

以上で質疑を終結する。本日はこの程度とし、次回、商工費からの審査を行う。

~ 散会 16 : 14